

[RICOH Printing Solution] IPSiO シリーズ導入事例

「SP C721」「SP C820」の導入で、基幹システムの印刷環境はモノクロからカラーへ!

基幹出力とOA出力プリンターの兼用を、
リコーのプリンティングソリューションで実現。



お客様の取り組み/導入の背景

製造業のお客様の満足度を上げるため、
業務のスピードアップを図る。

自動車、建設、航空機、医療機器など、日本の得意分野である“製造業”を支えている工作機械。三立興産株式会社様はその専門商社として、国内すべての自動車メーカーとの取引を中心に60年以上におよぶ豊富な実績と経験を培ってきた。現在では、最先端の設備機械をシステムインテグレートして国内外約1,600社に提案し、非常に高い信頼を得ている。また同社では、社内のIT化もいち早く推進してきた。1980年代から基幹システムに独自開発の三立販売管理システムを導入。「受発注」「仕入・売上」から「会計」「給与」までほとんどの業務が基幹システムで処理されている。1996年より一人1台のPC環



執行役員 総務管財本部
近藤 寧延 様

境を構築。全社員が同じ環境でシステムを活用し、スピーディーで確実な営業展開を可能にし、顧客満足度の向上に役立っている。このようにIT活用により業務の効率化を積極的に推進してきた同社だが、さらに業務品質の向上とスピードアップを図るべく、基幹システムの更新に伴って印刷環境の改善も検討した。

課題

基幹システム専用プリンター、
OA用プリンター両方の管理負荷を軽減し、
ユーザーにとっても快適な印刷環境を構築したい。

■機器の増設でオフィスが狭くなり、消耗品の管理負荷も増大

基幹システムでは社内業務のほとんどの帳票をモノクロの基幹システム専用プリンターで印刷していた。一方、お客様への提出資料などはカラーで印刷するため、各部署や各営業所にOA用途で複合機などを別途購入し利用していた。その結果、オフィスが狭くなり、さらに機器ごとの消耗品の在庫管理も負担となった。

■基幹システム専用プリンターは、印刷制御が面倒

基幹システムの帳票は、約10年前にストックフォームからA4サイズのカット紙に切り替えていた。しかし従来の基幹システムの印刷環境では、帳票のタテ・ヨコの向きなどの印刷コマンドをプログラムの中に組み込む必要があり、システム改修に手間がかかっていた。

■プレ印刷用紙セットの間違いで、印刷ミスも発生

納品書などは、「SANRITSU」という社名のすかしを入れたプレ印刷用紙を使用していた。しかし、用紙はトレイの1段目にセットしないと正しく印刷できず、印刷ミスが頻発。トラブルの対応で、基幹システムの運用管理やプログラム開発が滞ることもあった。

解決

基幹システムからの印刷をOAプリンターと共有することで、印刷制御が容易になり、印刷品質も向上。トータルの管理負荷も軽減。

■基幹系とOAプリンターの統合で、占有スペース、管理負荷やコストを削減
 同社は、リコーの自動プリント設定ソリューション「Ridoc IO DataSelector」とカラーレーザープリンター「IPSiO SP C721」「IPSiO SP C820」の組み合わせにより、基幹用とOA用プリンターの統合を実現できた。高生産性の「IPSiO SP C820」は月間の印刷枚数が多い部署に、デスクトップタイプの「IPSiO SP C721」は全国各地の営業所に設置。このようにプリンターを統合した結果、各オフィスにおける出力機器の占有スペースが大幅に削減。また、機器ごとに異なっていたトナーや用紙等の発注先も集約できたため消耗品の在庫管理の負荷を軽減し、コストも大きく削減することができた。

■帳票ごとの印刷設定を、基幹システムに手を加えずに実現

基幹システムのプログラム設定を変更することなく、「Ridoc IO DataSelector」で簡単に印刷設定が可能。「Ridoc IO DataSelector」は各帳票ごとに設定されたキーワードに紐づいて印刷条件（印刷方向やトレイ、倍率の変更、合成印刷（フォームオーバーレイ）、両面印刷など）を自動的に設定することが可能。また設定した内容は定義ファイルとして保存されるため、マスターPCで作成した内容を他のPCにも簡単に適応することが可能となる。これにより管理者側で、基幹システムのメンテナンスを度々行う煩雑さがなくなった。

■帳票の印刷ミスが大幅に低減し、高速・高画質印刷を実現

「Ridoc IO DataSelector」を使用することで帳票ごとに自動でプリンターの設定がされるため、ユーザーは印刷時トレイ設定などを意識せず、プリントできるようになった。プリンターの使い勝手が良くなったことで業務の効率化につながっている。またシステム管理者にとって

は、頻繁なトラブル処理業務も大幅に解消され、基幹システムをよりよく改善していくという本来の業務に集中できるようになった。

今後の展望

リコーのソリューションを活用しながら、さらに使いやすい基幹システムを実現。より顧客満足度の高い営業展開に役立てたい。

■さらなる業務効率向上やコスト削減が期待できる新しい印刷環境

「新しい印刷システムは、基幹システムの運用形態やユーザーの操作環境を変えることなく、印刷トラブルが減り省スペース化を実現できたことが良いですね」（執行役員・近藤様）。同社では当初の狙い通りの印刷環境を実現したが、あわせてコスト削減も実現できた。例えば「営業旬報」という帳票は、役員会議用に一度に約1,000枚以上を印刷する。これを「Ridoc IO DataSelector」で両面印刷の運用に変更したことにより、用紙を半分に削減できペーパーレス化にも繋がった。また、基幹システムでカラープリンターが利用できるようになったことで、「帳票データと同時に地色や社名などを印刷すれば、わざわざプレ印刷用紙を外部に発注する必要がありません」（情報通信部・神谷様）と、プレ印刷用紙の管理負荷やコスト削減も期待されている。

■身近になったカラー印刷の環境で、よりインパクトのある提案活動を

必用に応じてスピーディーに高画質のカラードキュメントが印刷できるようになり、お客様にとって分かりやすくインパクトがあるカラーの提案書作成も容易になった。「これからは一層お客様の方針やテーマを熟知して、機器の効果的な組み合わせと具体的なメリットが伝わる、インパクトのある提案が重要です」（近藤様）。

これからもリコーは、三立興産株式会社様にとってさらに有効な機器の活用方法やソフトウェアなどの連携を考え、質の高いソリューションを提案していく。

お客様の声



OAプリンターで基幹システムの印刷ができ、抱えていた課題も解決できると分かり、本当に驚きました。

三立興産株式会社 情報通信部 EDP-ROOM課長 神谷 久様

今回、リコーからの提案を受けたとき、最初の感想は「本当に基幹とOAでプリンターの兼用ができるのか？ OAプリンターで、我々の意図する基幹システムの印刷処理ができるのか？」でした。それまで基幹システムの帳票は、専用プリンターでモノクロ印刷しかできないと信じていたからです。ところが実際に「Ridoc IO DataSelector」というソフトウェアと一般業務で使われているカラーレーザープリンターの連携で、基幹システムの印刷が簡単に制御できると聞いて本当に驚きました。より使いやすい基幹システムを実現するために、この新しい印刷環境を活用していきたいと考えています。

お客様プロフィール

三立興産株式会社

- 事業内容：工作機械および関連製品等の販売
- 創業：1946年1月
- 社員数：130名 ※平成21年12月現在
- 所在地：名古屋市熱田区神宮四丁目1番25号
- URL：http://www.sanritsu.co.jp
- 導入セクション：
 - 営業部、海外営業部、
 - 総務グループ他
- 導入機器：
 - IPSiO SP C721 (21台)、
 - IPSiO SP C820 (5台)、
 - Ridoc IO DataSelector (500ライセンス)



株式会社リコー 東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222

<http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/>

お客様相談センター

リコー製品に関するお問い合わせは「お客様相談センター」で承っております。フリーダイヤルでお気軽にどうぞ。

FreeDial 0120-000-475

●受付時間：平日（月～金）9時～18時 / 土曜日9時～12時、13時～17時（日、祝祭日、弊社休業日を除く）

*通話料は無料です。

*音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュトーンでお知らせください。

*トーン信号が出せない電話機でお掛けの場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレーターに接続します。

*お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただきます。

■リコーにご提供いただいたお客様の個人情報の取り扱い方針については、当社ホームページでご確認いただけます。

本情報は、2010年2月16日現在のもです。

●お問い合わせ・ご用命は…